

令和2年7月6日

学校法人三幸学園
横浜スイーツ&カフェ専門学校
校長 小泉 いづみ 殿

学校関係者評価委員会
委員長 長谷川 力

学校関係者評価委員会報告

令和 1 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 長山 慎太郎 (有限会社 ヒューマンカウンシル 代表取締役)
- ② 安藤 雅樹 (株式会社ビー・ワイ・オー 新卒採用担当兼採用マネージャー)
- ③ 長谷川 力 (飛鳥未来高等学校横浜キャンパス キャンパス長)
- ④ 青野 佑奈 (第6期生 卒業生)
- ⑤ 植松 百香 (第7期生 卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年7月1日 (会場 横浜スイーツ&カフェ専門学校 501教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 横浜スイーツアンドカフェ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 今村温子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 長谷川力

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(重点施策)

・社会に貢献できる人材の育成

食を通して、「笑顔・信頼・感動」を生み出す人材となる為に下記7点を教職員一丸となって生徒指導をし、強化していく。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 技術向上に前向きに取り組む | 2. 掃除徹底・衛生管理 |
| 3. 休まない・遅れない・自己管理 | 4. 笑顔で大きな挨拶と返事! |
| 5. 誰かを想って考動 | 6. ポジティブ語を使う! |
| 7. 各クラスに即した目標 | |

・退学率低減、皆精勤率向上

・産学連携・地域連携の強化

(振り返り)

・教員の振り返りと生徒の振り返りには誤差があり、感覚ではなく具体的で分かりやすい指導が必要

・体調管理、メンタル強化、気持ちを切り替える強さ等引き続きの強化が必要

② 学校関係者評価委員会コメント

植松委員:掃除徹底など、学校で学んできたことを現場ですぐに活かすことができるため良かった。

今はコロナの影響でパーテーション越しに接客しているので、大きな声で挨拶と返事をする癖付けが出来たのが良かった。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・業界全体を捉えられる教育（マーケティングや厚労省発布の情報など）が必要
（今回のコロナ禍において、外食産業に関する価値観なども様々な角度で問われることが多く、学生のうちから考えさせていく）
- ・激動する飲食業界に応じ、都度求められるスキルに対処できるための教育をしていく
- ・技能面と人間性、両方の面での育成は形となっているが、社会人としての形成にもさらに力をいれる必要がある

② 今後の改善方策

- ・より価値のある人材として映る自己プレゼン能力の醸成。その土台になる知識やノウハウを伝える授業を HR などでも導入
- ・柔軟に主体的に考え動ける内容へ学内店舗実習授業を中心に授業展開する

③ 特記事項

食を通して、「笑顔・信頼・感動」を生み出す人材となるために具体的に示した7ヶ条に関して、生徒自身の自己点検を実施、また教職員に関しても全体会議で周知徹底し日々の各授業の中でも生徒への働きかけをしており、全校挙げての意識統一を図っている。

1. 技術向上に前向きに取り組む
2. 掃除徹底・衛生管理
3. 休まない・遅れない・自己管理
4. 笑顔で大きな挨拶と返事！
5. 誰かを想って考動
6. ポジティブ語を使う！

④ 学校関係者評価委員会コメント

安藤委員：調理・接客の技術は申し分なく、身だしなみや衛生の部分がしっかり身につけているのが特に良い。

自分目線の考えではなく、お客目線で考えることが社会人としてはよりシビアになることが多い。

学校では同年代の人とのチームワークが多いが、お店に入ると年齢幅があり、昭和の職人も多いため、その意識改革も必要。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・急速に情報の共有や公開など、形態としては整備されてきている中、教職員の理解と周知のほうが後手に回っている傾向
- ・効率や利便性の追求に併せ、教員としての人的な価値も同様に強めていく必要も感じる

② 今後の改善方策

- ・マニュアルだけにたよらず教員間の情報共有や勉強会の実施で把握し活用できるようにする
- ・業務改善や業務削減を積極的に行い業務の効率化を図ると共に、時間的余裕を生み出す

③ 特記事項

- ・年3回全教職員を集める会議を実施し、運営方針等の浸透を図ると共に情報共有を行っている。その際、リスクマネジメントに関する研修なども全教員で実施。
- ・地域の姉妹校全体でのプロジェクトを組み業務改善、働き方改革を検討実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

安藤委員：社会人として、お金をもらっているという立場をしっかりとわきまえることが必要。現場でも、教え方の上手い料理長とそうでない料理長がいるため、特に新卒の指導は指導力が高い料理長に任せている。また、新卒者用の本社研修の賄の時間では、携帯禁止ということルールとして設けている。自ら人と関わる姿勢をとることが大切だ。

青野委員：新卒研修のお昼の時に、一人で携帯をしている人がいたが気にはならなかった。しかし、そういう時に受け身だった人は辞めている率が高いように感じる。

安藤委員：コロナの影響により、今いる人たちをいかに残していくか、辞めさせないためにも、ワークバランスを考える必要がある。制度を作り替えていく動きが強い。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・技術者よりの思考と、教育者・組織人としての思考は相反する部分もあるため、技術レベルと教育レベルをかみ合わせていくこと
- ・刻々と変化する時代に合った教育内容と現場で求められる力を身につけさせられるよう対応していくこと

② 今後の改善方策

- ・入社時に適性テスト・実技テストの実施を検討。採用された専任講師向けの指導力セミナーの実施など
- ・教育制度や業界の理解を常に意識し、学習内容の見直しを随時行っていく

③ 特記事項

- ・企業様との連携、研修等の機会を作り、教員の知見も広めている
- ・姉妹校含め研修や授業の質向上のためのプロジェクトを実施
(技術力向上、授業内容の共有と改善、資格取得率向上等)

④ 学校関係者評価委員会コメント

青野委員：自身がインターネットを使つてのブログ更新を任せられることが多いため、SNSなどを学びたかった。

植松委員：衛生はもちろん、店舗実習でのお客様に対する言葉遣いは役に立った。敬語・のし紙等のビジネスマナーは学べてよかったと感じる。

安藤委員：クレーム対応など、臨機応変に対応できるような柔軟な考えが必要。仕事しながら学んでいくことが多いため、基礎があると強い。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・家庭環境・教育環境の変化、メディアの発達等により学校教育のスタイルの変化への柔軟な対応
- ・継続的な退学率低減、そのための効果的な取り組みの確立
- ・卒業後の正確な状況把握と離職率低減に向けた支援

② 今後の改善方策

- ・今の教育スタイルを周知の上、シフトチェンジをしていくための研修等を開催
- ・迅速かつ手厚い学生フォローや教員間の連携強化
- ・モチベーション維持、良好な人間関係構築のための仕組み作り（授業スタイル、クラス環境、サポート体制）
- ・卒業生就職先への訪問強化

③ 特記事項

- ・学園内独自の技術習得試験制度充実のための見直し
- ・クラス担任制度の強化（担任・副担任・実習担任）
- ・同窓会を実施し、卒業生フォロー体制の構築

④ 学校関係者評価委員会コメント

植松委員：在学中、自分自身が辛いときに同級生や先生の励ましがあつたから続けられた。クラスや仲間
の存在が学校生活で大きかった。

安藤委員：この状況になって、今までよりも一層、笑顔や時間を守ること、挨拶が出来ている子が重要視され
ている。

長山委員：企業側の教育スタンスもどんどん変わっていつている。環境を与え、本人の意思で成長させるので
はなく、環境・人・時間をたっぷり用意し、本人の速度に合わせた学校の延長ともいえる教育を行
っているところも多い。明らかに活躍しやすい環境も作られているからこそ、長く継続的に輝いてく
れる人材を企業は求めている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・卒業生に対する支援体制の更なる強化
- ・サポート体制強化のためにも保護者や高校との更なる連携
- ・学生に対する精神面、環境面のサポート強化

② 今後の改善方策

- ・卒業生：教員との継続的な情報共有システムの構築。同窓会組織の設立
独立開業支援制度や学内情報の共有
- ・保護者：何かあればすぐに相互連絡する体制の強化。学習内容を共有する機会の提供
- ・在校生：担任+副担任+実習担任の様々な方向からサポートできる複数担任制度
面談やカウンセリング体制等フォロー体制の検討

③ 特記事項

- ・経済的支援として、特待生制度、学費分割制度、経済支援制度、教育訓練給付金、奨学金制度、高等教育修学支援制度、コロナウイルスに伴う支援制度
- ・今年度は8月に学内にて同窓会を実施
- ・学園としての独立開業支援制度整備

④ 学校関係者評価委員会コメント

安藤委員：仲間の大切さを伝えるきっかけを作ることは必要。学校の中でいっぱい失敗を経験させてあげることが大切。研修の時に、仕事の自分を作るように指導している。素の自分を盛り上げていくのは難しいため、仕事のオンオフのスイッチを大切にされた方が良いと伝えている。

長山委員：自信を持って卒業し、自分が何を武器に社会に出るかを把握することが大切。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・教育上必要な施設・設備は整っているが、あらゆる災害を想定し対応できる環境整備は必要
- ・インターンシップに関しては、行先によって個人差が生じる

② 今後の改善方策

- ・インターンシップについては、過去の実績等も活用しつつ全員が有意義な機会にサポートする
- ・あらゆる震災等に備え、段階的な校舎の修繕と定期的な避難訓練の実施

③ 特記事項

- ・災害等に備えた防災対応ポケットガイドの配布
- ・Wi-Fi等メディア授業に対応できる環境整備を実施中

④ 学校関係者評価委員会コメント

植松委員:施設・設備に特に問題はなかった。地方出身者は特に、企業の仕組みが分からないので、その部分を重点的に教えて欲しい。

青野委員:施設・設備に特に問題はなかった。1年生ですべて学べる点が良かった。

長谷川委員:通信制高校の生徒にも専門学校を何日間か体験できるインターンのようなものがあると良いのかもしれない。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・精神や身体に何らかの事情を抱えた入学希望者の受け入れと、入学後の学習や人間関係等の兼ね合いや配慮
- ・18歳人口の減少が進む中、製菓・調理業界の就業を希望する志ある入学者の確保

② 今後の改善方策

- ・個別対応により、個々に応じた相談や情報共有の強化を行う
- ・高校との連携を強めていく

③ 特記事項

- ・一般社団法人 神奈川県専修学校各種学校協会が定めた募集時期や内容に関して遵守している。
- ・入試説明会や入学前保護者説明会等も実施し、相違が無いよう適性に伝えている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

長谷川委員:通信制高校出身者が増えている。横のつながりを求めている生徒も多く、仲良しが1・2人いればいいと思う子が増えている。クラスとして動くのが辛い、一致団結、集団行動が辛い子が多い。また、専門学校への期待値が高く、入学直後に張り切りすぎて、徐々に落ちていく子が多い。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・個人情報に関する意識の強化と管理徹底
- ・自己評価にもとづいた問題点の改善

② 今後の改善方策

- ・全ての教職員に対して法令遵守をさらに徹底させるべく会議等で働きかけを行う
- ・自己評価の継続的实施と問題点の明確な洗い出し、各改善策をチームにて検討

③ 特記事項

- ・平成26年度自己評価結果より公開

④ 学校関係者評価委員会コメント

青野委員：学生時代、個人情報の取り扱いに対し、予想以上に先生から注意を受けることが多く、管理の必要性も含め、社会に出る前に、しっかり学べたと感じる。また、学校の中で、労働基準などの法律についても教えてもらえると、その後さらに役立つ知識となるのではないかと。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・年間のカリキュラムやスケジュールの中での貢献活動の調整

② 今後の改善方策

- ・既存のものと新たな取り組みの調整

③ 特記事項

- ・学内店舗実習の積極的展開（現状や今後の業界を理解したうえでの運営）
- ・地域貢献活動（老人ホームイベント、こども食堂、百貨店等イベント等）

④ 学校関係者評価委員会コメント

安藤委員：コロナの影響で難しい部分もあると思うが、機会があれば連携もしていきたい。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・積極的な留学生募集を行っているとは言い難い
- ・国内での就職指導が難関。受け入れのできる企業とのパイプの強化は必須

② 今後の改善方策

- ・情報収集、訪問等による関係性の構築
- ・今後より多くの留学生が入学した場合を想定して、適切な指導・支援体制作り

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

長山委員:外国人の採用が増えてきているからこそ企業も学校も体制を整えていく必要がある。
学校生活をきちんとやってきた留学生を採用しようという取り組みが始まってきている。
出席率・成績ともに、日本人よりもシビアに見られている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

長山委員:これからも企業と専門学校の連携が必要だと思う。

青野委員:専門学校での学び等を振り返ることができたので、有意義な時間だった。

植松委員:卒業生として、学校の事や他の企業様との意見交換ができてとてもよかった。